

言葉が追いつかない。

この日、THE VANILAと観客の間に言葉が追いつかない程の、他の出来事が全て霞む程の「熱」があった。

「ぶっ壊れちゃったやつも、失敗しちゃったやつも、ここから始めようぜ『From Nothing』」とMCを挟み、ドラムの連打と共にラストの曲に突入した。

そこには、ボクシングの最終ラウンドを思わせる壮絶さがあった。

「俺の声を お前に届け～」と最後の力を絞り出した灰二の声は、心なしか揺れていて、目を見開いて歌う目力の強烈さに息をのんでいた。

『From Nothing』は13年ぶりに再始動したTHE VANILAが、今もライブの肝として歌っている曲。最後の歌詞を届けた灰二は、ギターを抱えたまま高く舞い座り込むように着地をし、そのまま後方に倒れこんだ。

今日の灰二は歌いながら何度も足を上げ、ジャンプを決め、腕を振り上げた。その度に彼の指先から、左右に振られた頭から、雨の野音か? と思うほどの尋常じゃない汗が勢いよく飛び散った。

## Stay or Go 特別編集号 第2弾 2008.03.28発行



THE VANILA

■ 2008.03.14 渋谷La-mama を振り返る ■  
: SUMIKO

「Stay or Go」

<http://www.stay-or-go.jp/>

※バックナンバーはサイトに記載されています。

THE VANILAの公式サイト

<http://www.thevanila.com/>

---ぶっ壊れちゃったやつも  
失敗しちゃったやつも  
ここから始めようぜ  
『From Nothing』---

photo 左: 渡邊灰二 Vo 右: 伊藤毅 Ba

毅は、雄叫びにも似たコーラスを幾度となく入れた。気づくとせり出すようにステージ前方に立っていて、こんなにも尖った彼を見るのは初めてで、鼓動が高鳴った。毅のベースは、常に灰二の歌と共にあった。

アップテンポな選曲と、いつもに増した激しいステージング、メンバーとの連帯感。今まで感じた事のないTHE VANILAだった。観客は駆り立てられ、ライブ全体に尖がった印象を持っていた。

元々、灰二の一極に集中させたテンションをバンドに投じる様には類まれなものがある。その灰二のテンションが今日はどう表現しているのかわからないくらい凄かった。ボクサーが試合前に己と向きあい、精神統一をするストイックさがステージに上がる前にあったのでは? と思わせるものだった。探究の深さは、彼の鋭敏な感覚をさらに研ぎ澄まし、鋭いものにした。

研ぎ澄まされた感性が、激しいステージアクション、歌、メンバーの音etcに如実に表れ、観客に尖った感触を与えていたのではないだろうか?

全力で駆け抜けるように深部に迫って行く灰二と毅の様は壮絶で、それだけに灰二の倒れこむ姿が完全燃焼に映った。

濃厚な時間は、結果的にTHE VANILAの空気、音、触れたものの感性すら研ぎ澄ましていった。

毅がステージを去る際「みんながんばれよ!」と野太い声で叫んでしまうほどの熱があつた。